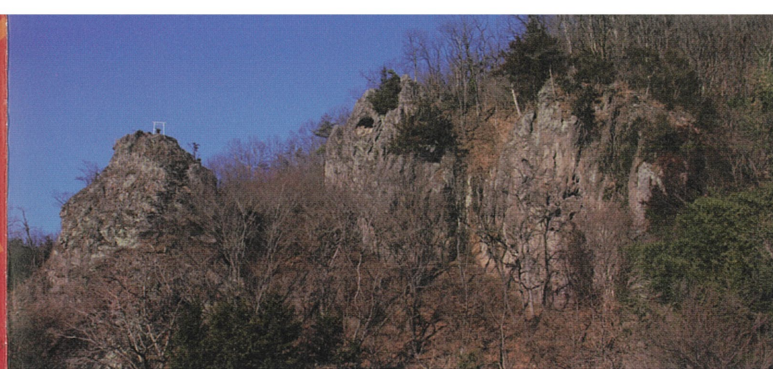




七里岩は、赤岳を最高峰とする八ヶ岳から甲府盆地に向かって楔のように伸びています。その名は、断崖が長野県の葛木周辺から葎崎市まで七里続いているからだと言われています。先端の形が葎の葉に似ていることから、「葎崎」という地名が起きたという説もあります。

七里岩の特徴的な岩肌の一つ「屏風岩」が平成27年10月7日に国登録記念物となりました。その岩肌は江戸時代の頃から人々を魅了し、『甲州街道分間延絵図』、『官遊紀勝』や『甲斐国志』などの書物の中にも描かれ、富士山との姿は俳句などにも歌われ慕われた名勝地です。

◆しちりいわ(びょうぶいわ)

七里岩 (屏風岩)

七里岩の断崖、それは戦国の要害の地として、そして岩肌の絶景は景勝地として先人達を魅了してきた。これからは伝えなければならない大切な宝物。



武田の里

自然の地形を活かした甲州流築城術の粋

国史跡

国登録記念物

新府城と七里岩

続日本100名城

しんぷじょう

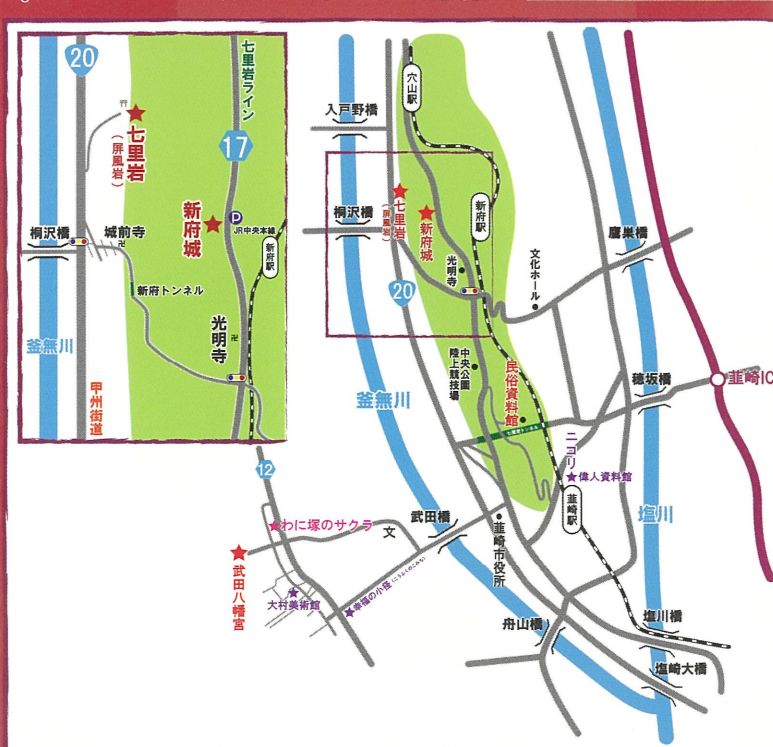
自然が生み出した絶景

しちりいわ

にらさき市文化財



民俗資料館
◆開館時間
9時～16時30分
(土曜日は午後1時から開館)
◆休館日
月曜日(祝日を除く)
木曜日午前中・祝日の翌日
年末年始
◆入館料
無料
◆新府城模型
〒407-0004
住所…山梨県葎崎市藤井町
電話…0551-22-1696



お問い合わせ
葎崎市教育委員会
電話：0551-22-1111(代表)
監修・発行：葎崎市教育委員会
イラスト・デザイン：和湖丸

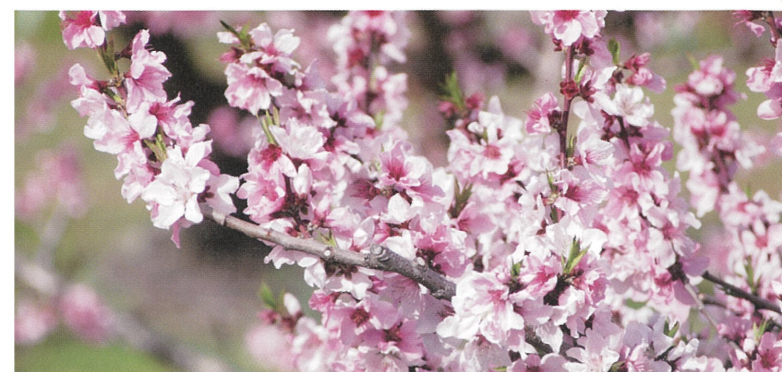


新府城

◆しんぷじょう

新府城は、武田信玄の息子の勝頼によって七里岩台地に築城された武田氏の集大成の城です。築城から入城まで一年足らずの未完の城ともいわれていますが、丸馬出、三日月堀や出構などの特徴的な遺構が随所に残り、甲州流築城技術を考える上でも魅力的な城跡です。

周辺には、新府城の北側を守る能力見城防塁跡や真田隠岐守信尹との関係が指摘されている隠岐殿遺跡などがあり、歴史を感じる景観が残っています。戦国武田氏の城を今に伝える良好な城跡として昭和48年7月21日に国史跡となり、現在、発掘調査や整備を進めています。



信玄の四男で、天文15年(1546)に武田信との間に誕生しました。諏訪氏の家督を継り、高遠城主(長野県伊那市)にもなりまし脚などにより、信玄の後継者となり、信玄4年(1573)に武田氏第20代の当主となりま上杉謙信は、当主となった勝頼を「若いがる」と評価していたことが明らかとなってい以後の体制の立て直しを図るべく、天正い本拠地として新府城を築城しました。し反などを受け、天正10年3月3日に再起を火をかけて岩殿城(大月市)に向かう途中で天目山(甲州市)で息子信勝や妻の北条夫人の世を去りました。

◆ 武田八幡宮

天正10年2月に武田勝頼の妻北条夫人が武田八幡宮に奉納した願文は武田氏の最後の緊張を伝えています。現在の本殿は勝頼の祖父信虎そして父信玄によって再建され、国の重要文化財に指定されています。

こみょうじ
◆ 光明寺

光明寺には、天正10年2月の木曾氏の離反により、命を落とした木曾千太郎らの墓があります。また、彼らの処刑地と伝えられている踊躍ヶ原が光明寺の近くにあります。

東西90m、南北150mほどの長方形の形をした曲輪くわです。一部の発掘調査では、礎石や築地塀ついでいが発見されました。また、他の曲輪では発掘されなかった高級品の青磁や焼けて炭となった米などが出土しました。北側から八ヶ岳の雄大な姿を楽しむことができます。

本丸の次に大きな台形の形をした曲輪くまわです。北辺130m、南
 辺70m、南北100mほどの大きさで、中央に土塁が作られ、
 東西に分かれています。建物の痕跡は確認されていません
 が、少量ですが当時の道具が発見されています。

新府城の中で最も大きな枳形虎口で、前面(南側)には、武田氏城郭の特徴の一つといわれている虎口を守る丸馬出と三日月堀があります。丸馬出の先に見える富士山の眺望は見事です。近年の発掘調査で、丸馬出に向かう通路や低い土塁の存在が新たに確認されています。

新府城は、韮崎市中田町中條字城山に、天正9年(1581)に武田勝頼によって築城された戦国時代の城郭です。築城から入城まで1年にも満たない短期間で造られました。また、築城には真田昌幸をはじめとする家臣たちが深く関わっています。新府という名前は、新しい府中(武田領国の首都を示し、政庁機能を躰躰^{たいたい}ヶ崎館(甲府市)から移したものと いえます。



二の丸の南側に曲輪があり、その虎口となります。現在、砂利道が虎口の一部を通っていますが、土塁を観察すると食違虎口の存在に気が付くことができます。

An aerial photograph showing a river flowing through a landscape. A bridge crosses the river, and the surrounding area includes green fields, trees, and a road.

東出構と西出構の2つがあります。堀に突き出た形が特徴です。北からの侵入者を迎え撃つ施設という説や堀の水の高さを調節をする施設説がありますが、その機能はいまだ定まっていません。

掘り出して
 掘り口とこれまで呼ばれて
 きましたが、本丸からの方
 位を示す乾を用いて乾門櫓
 形虎口と呼ぶことになりま
 した。櫓形虎口の城外側
 には2本柱の門、城内側には6
 個の礎石で支えられた門が
 あったことが発掘調査で明
 らけ落ちた状態でした。



空堀に向かい突出する部分があります。木橋をかけるための施設と考えられます。突出部は版築(土を突き^{ほんちゆう}固めること)で強固な構成がされていることが発掘調査で確認されています。

いぬいもんまがたごうち
乾門枳形虎口から二の丸に向かう途中に、土塁で一部を囲んだ直径25m前後の井戸があります。山の斜面から湧き出る水や雨水を溜める井戸だったと考えられます。

本丸の次に高い位置にあります。東西55m、南北75mの長
方形の曲輪^{くるわ}で、2段に造成されています。曲輪の周りは土塁
がめぐり、3ヶ所に虎口^{こぐち}があります。建物の痕跡が今のところ
確認されていませんが、釘、かわらけ(素焼きの小皿)や陶
磁器が発掘調査によって発見されています。

曲輪・・・土塁などで囲まれた区画	塹形虎口・・・土塁で四角く囲われた虎口
虎口・・・城や曲輪の出入り口	食違虎口・・・外側と内側で門の位置をずらした虎口
馬出・・・虎口を守るための区画	

